平成25年度第１回伊勢志摩定住自立圏共生ビジョン懇談会　結果概要

◆日時　　平成25年12月４日（水）19：30～21：05

◆会場　　伊勢市役所本庁舎４階　4-5会議室

◆出席委員

齋藤　平委員、大津春久委員、木村成吾委員、西山　敦委員、大西　栄委員
奥田昌利委員、西村純一委員、前田政吉委員、山﨑勝也委員、中村　功委員
田村重幸委員、米倉敦也委員、東谷泰明委員

◆欠席委員

岩崎良文委員、早川正素委員、小見山健司委員、畑　芳晴委員

◆出席職員

情報戦略局長、行政経営課長、行政経営課政策係長、行政経営課政策係主事２名、健康課長、こども課長、病院事務部参事、観光企画課長、商工労政課労政係長、産業支援課企業誘致係長、交通政策課交通システム係長、生涯学習スポーツ課長、都市整備部次長、広報広聴課長、職員課長

◆内容

（１）委員委嘱
（２）副市長あいさつ
（３）正副会長選出
　　会長　：齋藤　平委員
　　副会長：大津春久委員
（４）正副会長あいさつ
（５）委員自己紹介
（６）事務局からの説明
　・定住自立圏構想の制度概要について
　・伊勢志摩定住自立圏形成協定について
　・共生ビジョン懇談会における具体的な依頼事項
　・これまでの経過及び今後の進め方について
（７）伊勢志摩圏域の現在と将来について【懇談】＜懇談概要は別紙＞
　①圏域における現状と課題
　②圏域の将来像について
　③圏域づくりの基本的な方針について

〇医療について

・小児科医師の確保が課題である。伊勢市の健康課とは協議を行っている。
・輪番制における伊勢市民病院の役割が重要となる。
・建替を進めている伊勢市民病院であるが、ハード・ソフト両面において、どのような役割を担うのかが重要である。
・伊勢市内における救急の搬送先は、ほとんどが伊勢日赤であり、診療拒否がないと聞いている。

〇福祉について

・社会状況なのか、共働きの家庭が多く、日中、子どもを預ける家庭が多くなっている。しかし、実情は預けたい所に、預けたい時に預けることが難しい状況である。ファミリーサポートセンターなどの広域化で、会員がどこでも利用できるしくみがあれば良いと考えている。

〇雇用について

・地方銀行の立場としても、地方経済の縮小は預金の減少にも繋がり、我が事の問題であると捉えている。地域活性化のお手伝いをしたいと思っている。
・中小企業においては、求人を出すが採用ができない状態となっている。中小企業が単独で募集しても難しいのが現実である。中小企業でも元気のある企業がたくさんあるが、福利厚生の面において知識が少なかったり、ＰＲ力が弱いなどの要因により、採用が難しくなっている。これが問題であると感じている。この点に何らかの支援が行われると良いと考えている。
・企業立地を進めることよりも、中小企業への採用が進む取組が有効であると考えている。
・新しい事業を起こすことも大切だと思っている。補助金等の支援もあるが、地域において起業する土壌が確立されており、それを外部にＰＲすることにより、さらに進むと考えている。
・ミスマッチの原因は何なのか？
→募集しても、そもそも働く気のない人が応募してくる状況がある。
・熟練工の後継者がいないなどの問題もある。
・学生も就職したいと思っても、親の意識が働き、自分で決められないという状況もある。離職も課題であり、3 年は我慢してほしいと思うのだが、難しい。
・地方の若者や、都会に出た若者が収入は多少低くても、生活したいと思うことができる地域を作ることが重要であり、そのためにはネットワークが必要である。

○農業について

・少子高齢化の影響もあり、農業の人材育成が重要となっている。

・有害鳥獣の問題については、各市町において共通の課題となっている。各々で取り組んでいても効果が上がりにくい問題であり、連携することには意義があると感じている。

・中小企業振興の視点からも６次産業化を進めることが大切であり、連携することは良いと考える。

・地産池消については、小さい店舗が出店している現状にあるが、規模が小さいことから事業利益が上がらない状況にある。漁業においても同じであると思う。集約しＰＲしていくことが重要となる。

・地産池消について、給食や宿泊施設などで使うのはどうかという議論があるが、一定の品数と量を揃えることが難しい状況にある。

・地産地消を進めるにあたり、例えば北九州市のように大きな消費マーケットがないことが、最も難しい要因である。現状は、観光と連携して取り組んでいるレベルである。

・販売チャンネルを持っている農家の人は都市へ販売する。

・溢れるくらい作る地域でないと難しいと思う。ほとんどの農家が稲作であり、畑にしてもほとんどが自家消費している状況である。

・小さな取組は色々とやっているが、表に出てこない。

○観光について

・観光は、表面上は産業振興の面があるが、実際はまちづくりであると考えている。

・伊勢志摩観光コンベンション機構でも広域で取り組んでいるが、各市町の方向がバラバラであるというのが率直な感想である。また、観光に関する予算も少ないと感じている。

・地域間交流を進め、観光客が回遊することにより、新しい魅力が生まれ、新しい事業が生まれると考えている。

・ご遷宮はカンフル剤であり、是非とも活用したい。

・老人をターゲットにし、余生を楽しむ場所として、複合的な施設を整備し、移住する人を広域で受け入れるようなことも良いかもしれない。

・外国人観光客を受け入れることが重要なファクターである。

・ソフト面の整備が遅れており、地域間で取り組むことが良い。訪れる人に優しいまちは、住む人にも優しいと思う。伊勢に来る人が伊勢に住みたいと思うようになれば良いと思う。

・明和町は伊勢の入口である。明和町を通って伊勢へ行く。斎王、斎宮と伊勢は一心同体であると考えている。伊勢志摩観光コンベンション機構においては、オブザーバーの立場で加わっているが、正式なメンバーに入れていただいて、明和町から伊勢志摩の観光地図を作ってほしい。明和町は観光面においては、伊勢志摩

と連携したい。

〇交通について

・玉城町ではデマンドバスの取組を進めており、全国からも視察が来るほど先進的に行っている。利用頻度も高く、老人のニーズにマッチしていると感じている。財政上の問題などがあって難しい面もあるかもしれないが、他市町でもやってみてはどうか、老人の強い味方である。永久にできる取組かどうかは分からないが、成果が上がっている。
・老人の交通手段を確保することは、福祉の面で重要な課題である。
・路線バスの本数が減少している中、各市町がコミュニティバスを走らせているのは効率が悪く、十分とは言えないと思う。広域で効率的にできれば良いと思う。
・交通に関しては、まさにネットワークが有効であると思う。地域住民の交通手段を確保することは、行政の課題であると考えている。

〇情報発信について

・地域でのイベントなどの情報発信を単独で行うのは難しいし限界がある。広いエリアで情報発信すれば、多くの人が参加でき、楽しさも広がると思う。
・地域の情報は暮らしと結びついているものが多い。

〇暮らしについて

・少子高齢化、人口減少の影響もあり、自治会の加入率が低下してきており、組織運営が難しくなってきている。また、自治会の会員以外の人への情報が伝わりにくくなっており、災害時の対策を難しくしている。他市町から転入してきたら自治会へ加入することを義務付けるなどの条例がほしい。
・自治会の加入率が低下していることは全ての分野に関わってくる。
・空き家が多いので、例えば、そこで放課後の子どもたちの面倒を老人がみるなどすれば、人口増加に繋がるかもしれない。
・防災が取組に入っていないので、今後検討してほしい。

〇宮川流域について

・川上の状態を川下の人は分からないと思う。植栽しても鹿の被害を受け、災害を受けた跡地がそのまま残っており、台風が来ると流木となってしまう。流域が一緒になって取り組んでいく必要がある。自分たちの地域は自分たちで守らないといけない。
・川上と川下の住民同士のネットワークを作るしくみも必要である。最初は、行政がきっかけづくりをすると良いと思う。

〇全般について

・地元の課題に応えられる、相談を受けられる大学となりたい。皇學館大学で直接、該当の学部を持ってなくても、大学同士のネットワークがあるので、紹介することはできるし、もっと強化したい。

・皇學館大学は地元就職率が高く、中小企業との人材マッチングについても大学としてできることを考えたい。

・６次産業化、地域の安全安心も検討して欲しいと思う。

・小中学校の教育に関する取組、また、各分野における取組を進めるために必要となる地元人材の育成について、協定内容に記載されていないことが残念である。

・全国的な知名度としては、「三重」ではなく「伊勢志摩」であり、大阪・名古屋などからも比較的近く、気候も良いなど、非常に高いポテンシャルのある地域であると認識している。

・一般市民にとって、行政域とは関係なく暮らしている。この地域自体が魅力的な地域となって欲しい。「住んで良し、訪れて良し」、こうあってほしい。何事も一足飛びには行かないと思うが、一歩でも半歩でも進めて欲しい。